

230
納本
有新

支那事變の意義

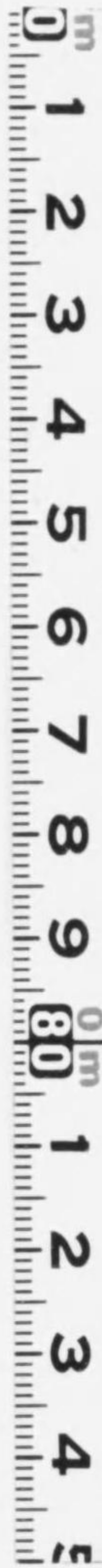
大分縣産業組合青年聯盟

特251

264

資料第一輯

(代謄寫)



始



特251
264

目次

一、經濟的大陸政策の根本……………一

二、北支事變と將來……………四

 北支事變の概要……………四

 北支事變と其の後の對策……………五

 國防上より見たる北支事變……………七

 經濟的に見たる北支事變……………八

三、北支はどうなる？……………一一

序

七月七日北支蘆溝橋の一角に端を發せる今次事變は、帝國の不擴大方針にも不拘、支那側の傲慢不遜なる挑戰的態度に依り遂に全面的に戰火の擴大を餘儀なくされた。而して其の後の戰局の推移に關しては新聞、雜誌、又は各種ニュースを通じて周知の所であると共に忠勇なる皇軍將士に對しては國民の齊しく感謝感激措く能はざる所である。

惟ふに今次事變は正に日本の興亡を決すべき事變であると共に、之が解決如何に依つては日本は非常な發展をするか或は衰頹の途を辿るか之の極めて未曾有の重大性を有する。支那事變の意義を闡明にすべき要は此處に存するのであつて、支那側の長期抗日政策の有無に不拘我等日本國民は初志を貫徹するまで支を收めてはならないと思ふ。從而我等國民は唯單に大陸に於ける日本の戰局に注意するばかりでなく、その内在的意義、換言すれば帝國の歴史的使命と相對比して始めてその戰績を論ずることが出来るのである。

本資料は所謂資料であつて論說ではないが、支那事變の意義の片鱗でもキャッチ出来れば幸である。

昭和十二年十月

大分縣產青聯書記局

第一 經濟的大陸政策の根本

（動亂の支那と將來より）

支那はかつて世界最大の富裕國であつた。しかるに今日は貧弱國である。それは何に由るのであらうか。農業經濟時代に於ては支那は世界の富強國たり得る資格を持つてゐたし、しかしながら機械工業が發達した今日支那はその發達に應じ得なかつた。英國の如きドイツの如き農作物の完全にできない國が世界の富強國となつた。今日世界全體を通じて農産物は非常な下落をきたしてゐる。米國も棉花の減産案を世界的に提供せねばならぬ程、それ程一切の農産物は下落してゐる。しかしアメリカの提案も實現は不可能であつた。工業はその數に於て少いたため獨占的傾向を多分に帯びてゐる。従つて工業に従事する者は農業に従事する者を意識すると否とを問はず搾取することになる。イギリスの如き農作物のできぬ國が富強國になつた以所である。支那の今日の疲弊は農業國であるからである。日本が大陸に發展する道として若し日本民族をして農業に従事せしめようと言ふなら、全然經濟的に期待してはならぬ。永久に大陸から日本は經濟的に利益を得ることは六ヶ敷い。

今日の世界的軍備競争は國防費だけで卅億から卅五億を組まねば一流國家と言へなくなつて來た。數年の後には國防費だけで五十億圓を超すであらう。此の國防競争に耐へない國は自然消滅する外ない。今日の日本は現状のままではそれだけの經濟力を持たない。そこで滿洲及支那を活用する外に日本としては此の國防競争に耐ゆることはできぬ。今日及今後の世界に於ては平常豫算二百億以上を組み得ない國は一流國として存在することは不可能である。そのためには日本は漢民族に農業を一任し東洋の工業を日本が獨占する外に方法はない。今日の支那は英米諸外國の工業的搾取によつて苦しんでゐる。日本は今回の事件を中心として支那大陸に工業の企業權を獲得せねばならぬ。そして支那大陸に於ける企業資源を獨占的に買収、發見せね

ばならぬ。そして職工學校、技術學校を大規模に起して日本の青年を工業的に訓練せねばならぬ。そして大規模に工業を大陸に起し鑛産物を採掘し冶金し、加工せねばならぬ。

日本人が支那に於て一切の工業品を製造し支那人がこれを全支那に販賣すれば、關税は收めなくて済む譯である。それで英米諸外國の工業品を支那から一切驅逐せねばならぬ。支那としては従来より安價な品物が手に入るのである。所が日本にとつては工業的搾取を獨占できる譯である。農業は既に發達してゐる。漢民族は特に發達してゐる。これと競争形態に於て大陸發展を企圖することは愚である。軍事的其他の理由ならば別である。經濟的に論ずるならば農業を根本に置くことは間違つてゐる。支那の北部は冬期は半年雪にとざされてゐる。日本の工業及び鑛業の移民が大陸に移住するならば、冬期に於て勞力を利用する道も拓かれ且つ家内工業の道も拓かれる。しかも野菜、果實等餘分の收入が農民に與へられることになる。日本が東洋に工業的搾取を擴大することによつてのみ、日本は東洋の獨立を守るべき費用を獲得することができる。山西省はおそらく日本の工業的本據を据えるべき地であらう。しかしながら日本の勢力を北支に限るならばその工業品の販路は小さ過ぎる。やはり東洋の大阪を山西に置くとしても對象は主として南支にあらねばならぬ。不毛の英國が世界の農作物を支配し得た理由をモツと考へねばならぬ。

戦争の重點が歩兵から飛行機に移つたのである。歩兵は農業の上に立てられることを重要とし、飛行機は工業の上に樹てられることを重要とする。國內に於ても工業が農業を搾取してゐるが、これは訂正さるべきことだ。又一民族が工業をもつて他民族を搾取することも正しきことではない。しかし東洋全體の獨立を計るためには先づ東洋に於ける白人の工業的搾取を除き東洋の經濟的獨立から計劃せねばならぬ。その能力を持つものは日本のみである。しかも日本は政治的に軍事的に東洋を獨立せしめ幸福ならしめるためには多額の財を要するのである。その財は以上申し述べた様な形で集めることを最も聰明な方法とするのであります。永久でないにしても目下の急務である。

今日支那とは宣戰布告されてゐない。従つて講和談判などと事新らしく形式化することも急ぐ必要はない。日本は戰爭をする上に必要であるから鐵道もドン／＼つけるが良い。又これから冬にもなるから。戰爭をする上に石炭も必要である。石炭もドン／＼掘るが良い。又戰爭するためには鐵も必要である。製鐵所もドン／＼新設するが良い。紡績も必要である。紡績も必要である。紡績工場も建てるが良い。鐵工場も建てるが良い。電力も起さねばならぬ。經濟的進出と戰爭とを切りはなす必要はないのだ。火柴の臭が消えると支那民族の考へ方が變る。支那自身を救ふためにも支那の國內に工業を起すことだ。日本は大規模に青年を工業技術家として仕立てねばならぬ。そして急速に二百億、三百億の豫算を組み得る國家を打ち樹てねばならぬ。政治的に支那の自治獨立は尊重せねばならぬが經濟的な一大ブロックを東洋に樹立せねば日本は世界の一流國たり得ないのである。

滿洲には資源もある。人力もある。しかし缺けたるものは企業家だ。企業家が無いのではない。企業家が入れない様にできてゐるのだ。滿洲國の制度は粉飾をとり去れば根は社會主義の原理である。企業家は働いて見ようと言ふ考へを起さない。日本内地は統制經濟が必要であるが、滿洲や北支にその理論を及ぼさうと言ふことは大變な間違ひである。ロシアと戰爭するとすれば最初の一ケ年には陸軍だけで二百億圓必要だと言ふ。次年度から毎年百五十億圓消耗せねばならぬと言ふ。もし日本が數年ロシアと戰爭するならば、日本の國內には多くの餓死者を出すであります。例へばロシアに勝つたとしても、日本が弱つて居れば英國はアメリカを誘つて日本に干渉を加へるであらう。かつての三國干渉の様なこと起るであらう。そこで戰爭に勝つても收穫を收め得ないことになる。そこで滿洲及支那の資源を急速に開發して對露作戰に要する費用の出所をここに造らねばならぬ。そして日本の經濟力を消耗させず英米に備へて置かねばならぬ。そのためには一日でも半日でも急いで滿洲及北支の資源を開發せねばならぬのである。それには餘りに滿洲の經濟制度は當を得てゐない。北支をもし滿洲の如くならしめ

るならば、事件費の外に多くの維持費を必要とし、日本の助けになるよりは日本の負擔になる。北支の經濟政策の樹て方如何によつて日本の興亡は決するであらう。

四

第二 北支事變と將來

(九日主筆清水芳太郎氏講演の一部)

北支事變の概要

北支事變の概要に就ての話を申し上げたいと思ひます。蘆溝橋事變が起りましたが、天津軍は結局談判によつて形付くと云ふ見透しをつけて、二十五六日頃まで現地主義、不擴大主義で交渉を重ねてゐたやうであります。天津の參謀部は中央の増兵申出も斷り誠意を持つて交渉を續けてゐるうちに支那軍の方がだん／＼戰闘準備をして來たので、天津軍としては應戰の準備をやらねばならなくなりました。前述の様に天津軍は初めから戰爭をする意思が無かつたものの如くでありますので、兵力は極めて少なかつたのであります。

その少い兵力を以つて應戰せねばならぬので、天津及通州の如き土地は兵力を省いて他の地方に派遣したのであります。それは天津に北支隨一の親日派たるリブンデンが居るから、これに居留民の保護を依頼できるから澤山の日本兵を置く必要がないと考へて天津の兵力は非常に少くしたのであります。又通州には冀東政府長官殷汝耕が保安隊を率ゐて居るから大丈夫である。と言ふので通州の日本兵も驚く程少なかつたのであります。所が此の親日派と信じ切つてゐたりリブンデンと日本の子飼の様な殷汝耕とが支那軍と合流をして天津軍はもとより、天津一萬の日本人と通州三百の日本人とを皆殺しにしようと企てたのが北支事變の内容と思はれます。

通州の日本人三百餘名はバルチザンの如く虐殺されました。天津には幸ひ日本の飛行機がありましたので、支那兵の據つて

ゐる南開大學其他を爆撃したのでヤツと一萬の同胞の生靈は救はれたのであります。廿八、九日にかけて日本の入口たるタンクを攻撃シタンクと天津との間の鐵道を破壊し、且つ天津と北京との鐵道をも破壊し更に各地の電信電話を切斷して日本軍の聯絡を斷ちました。そして豐臺、郎坊、南苑、其他に於ける日本軍を殲滅せしむると共に、北支に於ける日本の居留民を皆殺しにしようと企てたのが今日の北支事變であると思はれます。

天津は危くもまぬがれましたが、通州は實に氣の毒なことになつたのであります。不擴大主義結構であります。しかしこれを實現するためには多くの兵力と準備とを必要とします。日本の兵力が手薄で支那の方が勝ちさうな状態では不擴大主義は實現できません。無準備なる不擴大主義が益々事態を擴大せしめ、信ず可からざる支那人を信じた所に認識不足があると思ひます。たのむべからざるをたのむことは古來兵家の最も戒める所であります。

北支事變と其の後の對策

其の後支那軍は北京の西北張河口と北京の南方保定と北京の東南滄州に集中してゐました。此の三ヶ所から日本軍を攻撃しようと言ふのであります。日本軍は張河口や保定を空襲してゐました。今回北支で日本軍から討伐されたのは宋哲元にしても馮治安にしても馮玉祥の部下であります。蔣介石と馮玉祥とは今日の支那に於ける二大立物であります。蔣介石は馮玉祥を軍事次長として南京に置き彼の智慧だけを搾ることにしてゐます。そして彼には直接兵力と土地とを與へてゐません。北支事變の際にはその馮玉祥の乾分が日本軍から討伐されました。その間蔣介石は何等應援せず蔣介石が誇つてゐる中央軍飛行機も一回も飛びませんでした。

蔣介石は成る可く自分の旗本の中央軍と日本軍との衝突を避け難軍と日本軍との衝突を希望したかも知れません。日本軍によつて難軍を整理してもらふことは蔣介石にとつて支那統一の上に望ましいことでありました。蔣介石がさう云ふ考へでありますから難軍の方でも心から蔣介石に服従してゐるのでなく、今日抗日の空氣が強いのでやむなく動いてゐるものもあると思

五

像せねばなりません。斯様な状態の下にあつて我が忠勇の將兵を支那の雜軍掃除に使用することは考へものだと思ひます。蔣介石は雜軍と日本軍とを戦はせてゐる内に、支那内部にも日本軍の強いことが理解されて今日日本と戦ふことが不利であると云ふ説が段々擡頭して來ると見てゐるのではないでせうか。何應欽の如き自重論を主張してなぐられたと傳へられてゐるが以て支那の空氣を知ることができませう。

支那は日本に勝つと信じてゐる様であります。蔣介石は日本に負けることを知つてはゐても今直ちに引く譯に行きません。そこで雜軍と日本軍とを戦はせることは一石二鳥と思つてゐるのでありませう。日本軍も大兵を長く大陸にさらせば軍費がかさみ經濟的窮乏が日本國內に起きて來る。さうなると、日本にも妥協主義が擡頭して來る。ロシアは今直ちに兵を出して支那を助けることはできないにしても支那と日本とが長く戦争をすれば日本は經濟的に疲弊し、對露準備が遂行できなくなるから結構であると思ひませう。なるべく經濟的消耗を希望するであります。それからイギリスであります。イギリスは中央軍と日本軍との衝突を極力させようと思つてゐる様子であります。イギリスは北支は既に日本にゆづり手を引く考へと思ひます。日本軍と中央軍との衝突をさせ、北支は日本の勢力範圍に讓つて日本と支那を妥協させようと思ふのがイギリスの肚と思ひます。かりに黄河以北が中立地帯となつて日本の勢力範圍に置かれたと假定します。その様な時には黄河以南の抗日は益々盛んになつて日本人は一人も黄河以南に入ることはいふまでもありません。そして黄河以南はイギリスの手中に落ちるであらう。而も雜軍は亡びて蔣介石が黄河以南を完全に統一し更に幣制改革が完成すれば支那は相當強いものになりませう。銀をとりあげて紙幣を渡しつづつあるのですが、全部銀をとりあげてしまへば財閥全體は蔣介石政權を倒すまいと努力します。財力と兵力とを蔣介石は握ることになります。さうなれば支那は近代國家の體形を備へて來るのであります。日本がロシアと戦争する様なことがあればその時こそ失地回復で支那は日本にとつて痛となるのでありませう。そこで日本としては、中央軍を討伐することを考へねばならぬと思ひます。つまり一舉にして南京を大空襲すべきであります。

蔣介石は彼の創立した南京の市外にある軍館學校に起居してゐるとの事であります。先づ此の南京の軍館學校こそ擡頭の對

象であらねばならぬと思ひます。蔣介石がどうかかなれば支那は分裂すると思ひます。廣東、廣西の如き南支那も決して蔣介石に心服してゐるではありません。山東の韓復榘にしても決して蔣介石に心服してゐるではありません。

中央軍が日本のために討伐せられるならば、支那の各地には自治聯省の運動が發生するかも知れません。もし日本軍が如何に不擴大主義をとつてもそれは今日駄目であります。馮玉祥は自分の兵力、自分の乾分を日本軍に討伐されました。その間蔣介石は飛行機一臺飛ばせて呉れなかつた。馮玉祥は今度は中央軍と日本軍とを衝突させる様に活動するかも知れません。結局は中央軍と衝突する様になりませう。南支には日本居留民が多いのであります。北支に於ける如く手遅れにならぬ様充分準備をすると共に一舉南京を大空襲すべきであります。それが戦争を不擴大ならしめる方法であります。先手をうたれぬ様南京の大空襲を吾々は希望するのであります。善く攻めるのは九天の上を動くと言ひます。今日は事實九天の上を動き得るのであります。政府も大抵にして腰を据ゑないと駄目であります。

國防より見たる北支事變

ロシアが滿洲を攻める方法を色々と研究してゐることは言ふまでもありません。この結論として得たる所のは御承知の通り馬蹄形戰術として有名であります。

滿洲を馬蹄形に包圍するのであります。その東南端がウラジオであります。その西南端が北支であります。今日外蒙古は事實上ロシア領となつてゐます。ロシアの工業地帯から、トラツク隊、タンク隊を組織して太原、張河口、西安等に南下して來ます。それから段々北上して日本軍の背後を突くのであります。支那そのものの兵力は強くないとしても、支那が道をロシアに貸すと日本軍が非常に不利であることは言ふまでもありません。日本は對露作戰からも、日本の自衛上からも不擴大と言ふ様な消極的なことでなく、北支を此の際日本の勢力圍内に置く必要がであります。そして大いにロシアの南下を防止する設備を施さねばなりません。地圖で見ると蒙古は山ばかりの様に見えますが平坦な高

原で、海原に草の生えた様を所です。全體が道路であると考へて宜しいのであります。どこからも出て來られません。此の際徹底的にロシアの南下に備へ得る様にせねばならぬと思ひます。

經濟的に見たる北支事變

今日の國際情勢を見ると無制限な軍備競争が行はれてゐます。今日の一流國家である米國や英國やロシアの國防費は昨年度豫算卅億圓から卅五億圓程度であります。しかし更に更に増加する傾向にあつて今の所減少する見通しはつきません。卅五億圓が四十億、五十億と増加して行きます。

日本は先づその三分の一であります。一流列國が國防費五十億、六十億を組む時、日本も少くとも卅億四十億は組まねばなりません。しかし日本の今日の經濟力では三十億、四十億の國防費を組むことは困難であります。

三十億の國防費を組む時は五十億以上の總豫算を必要と致します。今日のままで國防競争が續行されて行きますならば日本の如き經濟力の小さな國は自然消滅を免れないのであります。アメリカの昨年の總豫算は七十億ドルで日本の金にすれば二百億圓位であります。その内から三十五億圓の國防費を組むことは容易でありますし、更にアメリカの經濟力を以てすれば七十億八十億の國防費を組むことは何等の苦痛を感じないのであります。明日の國防は別として今日の一流國家であるためには先づ二百億圓程度の總豫算を組んでも國民に苦痛を與へない程度の經濟力を有することあります。しかるに今日の日本では國民全體の所得が僅かに百二十億程度のものであります。これでは戦争がなくとも國防競争の續く限り日本は一流國家の資格を自然に失ふことになるのであります。

此の形大なる經濟力を養ふためには一面國內の經濟制度を變更すると共に今回の事變をきっかけとして支那に於ける資源を活用し日本と大陸とに廣大な經濟ブロックを打ち樹てることあります。支那の政治的獨立は尊重しなければなりません。經濟は國境を超越して或範圍に擴大されなければなりません。

◇
アメリカは御承知の通り昨年の十一月南北大陸廿一ヶ國をブラジルに集合しました。そして文化的の協力を計劃し更に通信交通機關の聯絡統制を決議しました。更に廿一ヶ國は關稅を撤廢し自由貿易を採用することを計劃しました。又共同外交、共同國防をも決議しました今日の程度の進んでゐるかは知りませんが、合衆國を幕府とし他の諸國を諸藩とするアメリカ封建國家が誕生しつつあると考へられるのであります。即ちアメリカ大陸には文化、經濟、國防に亘る超ブロックが発生しつつあるのであります。

斯様な超ブロックが発生すれば、一國の力をもつてこれに當ることは不可能となつて來ます。百億、二百億の國防費すら苦痛なく支出できることになつてくるのであります。今日の世界列強には斯様にしてより大きな、より強力な集團方法が見えられつつあるのであります。日本も舊慣にのみ固着する譯に行かぬのであります。

◇
刀や弓が武器でありました頃は藩と言ふ小さな經濟ブロックで武装してゐたのであります所が大砲が發明され軍艦が建造される様になると藩では武装し得なくなつて遂に封建制度は倒れたのであります。しかしながら今日の如く飛行機が出來、タンクが出來、國防費が三十億、五十億と必要になつて來ると小さな國家は藩の多く自然消滅せざるを得なくなつたのであります例へば今日ドイツにはドルニエ號と言ふ大きな飛行機があります。百人以上乗れるのであります。馬力は七千馬力でありますもしこれが武装をしますと大砲をつみ重機關銃を十五六臺も積みます。その上爆弾十一噸を積みます。普通の飛行機がこれを襲撃しましても機關銃の彈丸がとどかぬ内にドルニエ號の大砲の彈丸がドン／＼飛んで來ます。ですからこちらの機關銃を射たぬ内に射撃されます。

一噸の爆弾はどの位の威力を持つつかと言ふと、今日の一等級の軍艦でも、その近邊の海に一噸爆弾を破裂させると、その水壓のために艦底に大穴が空いて一邊に顛覆するさうであります。一噸の爆弾が如何に恐ろしい力を持つつかが想像されます。そ

の爆弾が十一本も積めるので空の軍艦とも云ふべきものであります。

斯様な裝甲した大飛行機が數百臺、日本の空を過ぎたとすれば、日本は土の下から耕されてしまいます。アメリカにはドルニエ號より更に大きな一萬馬力の飛行機を目下建造中であり、我々日本人如何に貧乏とは云へ列強が斯様な國防充實を計る場合には黙つて見て居れません。チツとして居れば日本は没落の外ないのであります。

吾々國民の急務は二百億程度の豫算を組んでも國民に何等苦痛を與へ得ない程度の大經濟力を持つ日本を建設するには如何にすれば良いかと云ふことであります。北支には無限の資源があります。

滿洲、北支、及び支那を如何に組織すればその大經濟國家を建設できるかと言ふことが今日の我々の問題であると思ひます。今まで日本は青島でも上海でも戦争をしました。しかし今日青島はどうなつてゐますか。兵隊さんが生命を失つて取つたものを外交部は支那に渡してしまひました。今回の事變がただ支那と戦つて勝つたと云ふだけのことなら何んにもなりません。支那に勝つても名譽とは云へません。特に支那は日本の弟であるとするれば弟をなぐりつけたことは何の名譽にもなりません。支那の事件を中心として日本と支那とは完全に結び付く様に工夫せねばなりません。又日本の商品も關稅なく支那人に安價に賣れる様になり、支那の資源も日本人の手によつて自由に開發される様にならなければなりません。そして支那の民衆も日本も共に救はれねばなりません。

そして日本が二百億、三百億の豫算を組める様な經濟力を得られる様に致さねばなりません。従つて北支事變はこれからが問題であります。銃砲の後に經濟的計畫が続いて居らねばならぬのであります。

アメリカ大陸以上の強固な經濟ブロックの建設が銃後に續かねばならぬのであります。この意味に於て北支事變はこれから初まるのであります。その後始末如何によつて日本の興亡がきまると私は確信します。

第三 北支はどうかなる？

(十月三十一日大朝夕刊)

北支、上海兩方面における戦局の進展に伴うて北支はどうかなるか。先づわが國として北支に對して如何なる態度と對策をもつて臨むべきかといふことは今や國民のひとしく注目する問題となつて來た。すなはち今後戦局が短期で終末をつぐるとしても、また長期抗戰に發展するとしても北支問題は國民最關心の事實となつて來たのである。この北支問題は戦局終結後における時局收拾の問題と關聯して來るのであるが、そも／＼今回の支那事變に對する帝國政府の根本方針すなはち帝國政府の戰爭目的が支那の百八十度の轉回を目標とする以上、北支問題に對する政府の根本方針もまた政府の屢次の聲明にあるごとく、領土的野心乃至は單なる實利的利權獲得に出發するものでないことは明々白々であり、したがつて北支における政治形態の問題についても、經濟建設工作の問題についても全く領土的野心乃至は單なる利權獲得の小乘的見地に發足せず、北支の明朗化、日滿支の提携、共同防共の三點に帝國政府の根本方針が打ち樹てられるであらうことは頗る明瞭であると云つていい。

先北支に於ける政治形態の問題については帝國政府が表面上も裏面においても介入の手を差伸べて高壓的の干渉的態度をとることは絶対に避くべきであるとの公明なる態度を持し、北支における善良なる民衆を基礎とする自然發生的なる政治形態の實現を希望し期待してゐるといふのが政府の眞底である。しかし帝國政府としては現在北支一帯にわたつて地方有力者により組織されつつある治安維持會の動向に照して北支五省に親日的親滿的な自然發生的の政治形態が出現しこの意味に於て特殊地帯化される可能性が極めて濃厚である事實は北支の明朗化と日滿支提携の新精神に鑑みて帝國政府のもつとも歓迎するところであらう。

次に北支の經濟建設工作についてであるが、北支經濟工作は北支の政治問題と密接なる關係を有し、互ひに相表裏する關係に立つ場面が少くないのでわが國としては北支の政治形態が今後如何に發展して行くかを見極めた上でなくては經濟各部門に對する具體的の決定をなし得ざる事情にあり、現に政府の方針もまたその緒についたまでであるが、最近政府部内並びに民間財界、産業界では北支經濟建設に對する急速なる展開を要望するの論がすこぶる高くなつて來た。政府においてもこの準備のため今回閣議決定として企畫院内に北支對策委員會を新設し青木次長を委員長に、官房調査官田中長茂氏を幹事長にあげ陸海、外、大藏、商工、農林の各省および滿鐵、興中公司など北支開設關係機關と聯絡をとり北支經濟開發についての基本的な調査に着手しその調査を基礎に北支經濟開發の大綱方針を樹立することになつたのである。北支經濟開發についてはすでに松岡滿鐵總裁、十河興中公司社長をはじめ現地、中央の官民を通じて各方面より種々の進言が政府に對して行はれてゐるが、これらの進言、意見をを通じて最も問題とされてゐる點は北支經濟開發を主宰すべき特殊機關を如何にするかの點である。

さきに松岡滿鐵總裁から政府に進言したいはゆる松岡案によれば交通、鐵、石炭、アルミニウムなどの北支資源の基本的開發に對しては經驗と資本力を有する滿鐵が設計に當るべしとする滿鐵中心の點大なるものであるがこれについては政府部内をはじめ軍部、民間側においても反對論が強く滿鐵は本來の使命にかんがみて産業五ヶ年計畫の實現に専念すべしとの要求が有力であつた結果松岡案は遂に葬られてしまつた。滿鐵の北支進出論に對するものとして興中公司を改組擴大してこれをもつて北支開發に當らしむべしとする意見が十河社長を中心に提言されたがこの提言は興中公司がまだ經驗に乏しくかつ資本力吸收の無力を理由に松岡案とともに解消となり、結局國家資本と内地民間資本との合作すなはちわが財界の全面的出動による特殊會社を設立しこの特殊機關を北支開發に對する經濟上の最高位に置いてその統制下に鐵、石炭、アルミニウム、鹽田、硫安電力など北支の近代的基産業に對してそれ／＼個別的に姉妹會社を設立しこの姉妹會社に對しては内地の關係産業の民間資本を吸收するとの方針に政府と民間との見解が一致したやうである。すなはちたとへば河北産棉に對しては内地の紡績資本を動員するといふ方式で内地のトラストと資本的に結合せしめようといふにある。しかし北支經濟建設の根本方針乃至はその

根本をなす指導精神としては中央現地を通じて飛躍的な、強權的な、觀念的な統制主義を排し個々の具體的な産業開發に當つては成るべく民間資本の自由企業の開發に委ねべきであり、この見地からいつて外國資本の吸收もドシ／＼はかるべきであるとの方向に向つてゐることは確實である。

ただこの自由企業的方向も日、滿、支の經濟ブロックを最高目標として統制さるべきであり、このために特殊會社の成立に重大な意義が見出されることは勿論である。政府としても滿洲國の經濟開發の經驗に鑑みて大体この方針の採用に向ふことは間違ひなく、しかしてこの北支特殊會社は政府、民間のタイアップと財界總出動によつてはじめてその存在の意義を見出すべきものであるから、これを主宰する實質についても郷誠之助、勝田主計、津田信吾氏らの如き手腕、力量ある人物の出馬が要望されてゐるやうである。

昭和十二年十一月八日印刷
昭和十二年十一月十五日發行
(非賣品)

發行所 大分縣產業組合青年聯盟

編輯兼 大分市中島六條三丁目川野

發行者 中原 民穂

印刷者 大分市碩田橋通九二五

印刷所 高山通男

印刷所 大分市碩田橋通九二五

印刷所 高山活版社

終

